

# 沼津市観光振興ビジョン

## アクションプラン



平成19年3月

沼津市

# 沼津市観光振興ビジョン アクションプラン 目次

1	アクションプラン策定に向けて	
1	位置づけ	2
2	アクションプランの検討方針	3
2	アクションプラン	
	一覧表	6
1	「ぬまづ 海・道楽」のイメージ創出	7
2	海・道楽のシンボル作成	10
3	観光姉妹都市の選定・締結	12
4	コンベンション・ビューローの設立、コンベンション誘致	14
5	富士山ビューポイント整備	16
6	海の駅・道の駅の整備	18
7	海ウェルカムプロジェクトの実施	20
8	新たな観光拠点の整備	24
9	観光継続事業のさらなる推進	28
10	新規商品開発	32
11	既存イベントの整理統合	36
12	戸田・井田地区魅力増進施策展開	38
13	広域で進める観光連携	42
14	観光ひとづくり	44
15	ぬまづのひとによるPR	46
16	ぬまづのものによるPR	48
17	ターゲットを絞ったPR	50



## 1 アクションプラン策定に向けて

ここでは、アクションプランの策定に向けての基本的な流れと考え方をまとめます。

# 1 位置づけ

沼津市では、平成18年3月に観光振興ビジョン（基本計画）を策定し、観光振興のコンセプトとして「観光都市のブランド＝「沼津」の創出と向上」を位置づけました。ここでは、沼津市を観光都市としてブランド構築するために、県内で最も長い約60kmある海岸線を沼津の最大の強みと認識し、海の魅力を最大限引き出す観光振興によるまちづくりを推進することになっています。

沼津市観光振興ビジョン・アクションプランは、5つの目指すべき姿と14の柱立てからなる基本計画を踏まえ、観光都市の将来イメージとして掲げた「五感満感 「ぬまづ」 海・道楽」を実現し、沼津市を観光都市としてブランド構築するために、具体的なプログラムを明らかにして、その行動方針を示すものです。

## アクションプランの位置づけ

【観光振興のコンセプト】

観光都市のブランド＝「沼津」の創出と向上

【観光都市の将来イメージ】

五感満感 「ぬまづ」 海・道楽

「海」を強調した観光振興によるまちづくりを推進します。個々のスポットがもつ海の魅力を体系化し、まち全体の観光の色として発信できるような取り組みを進め、観光客に奥深い海の魅力を様々な形で体感していただきます。

## 沼津市観光振興ビジョン

### 基本構想（5つの目指すべき姿）

魅せます沼津・東部・伊豆

魅せます沼津で海の幸

魅せます沼津で海遊空間

魅せます沼津で海と富士山

魅せます沼津でおもてなし

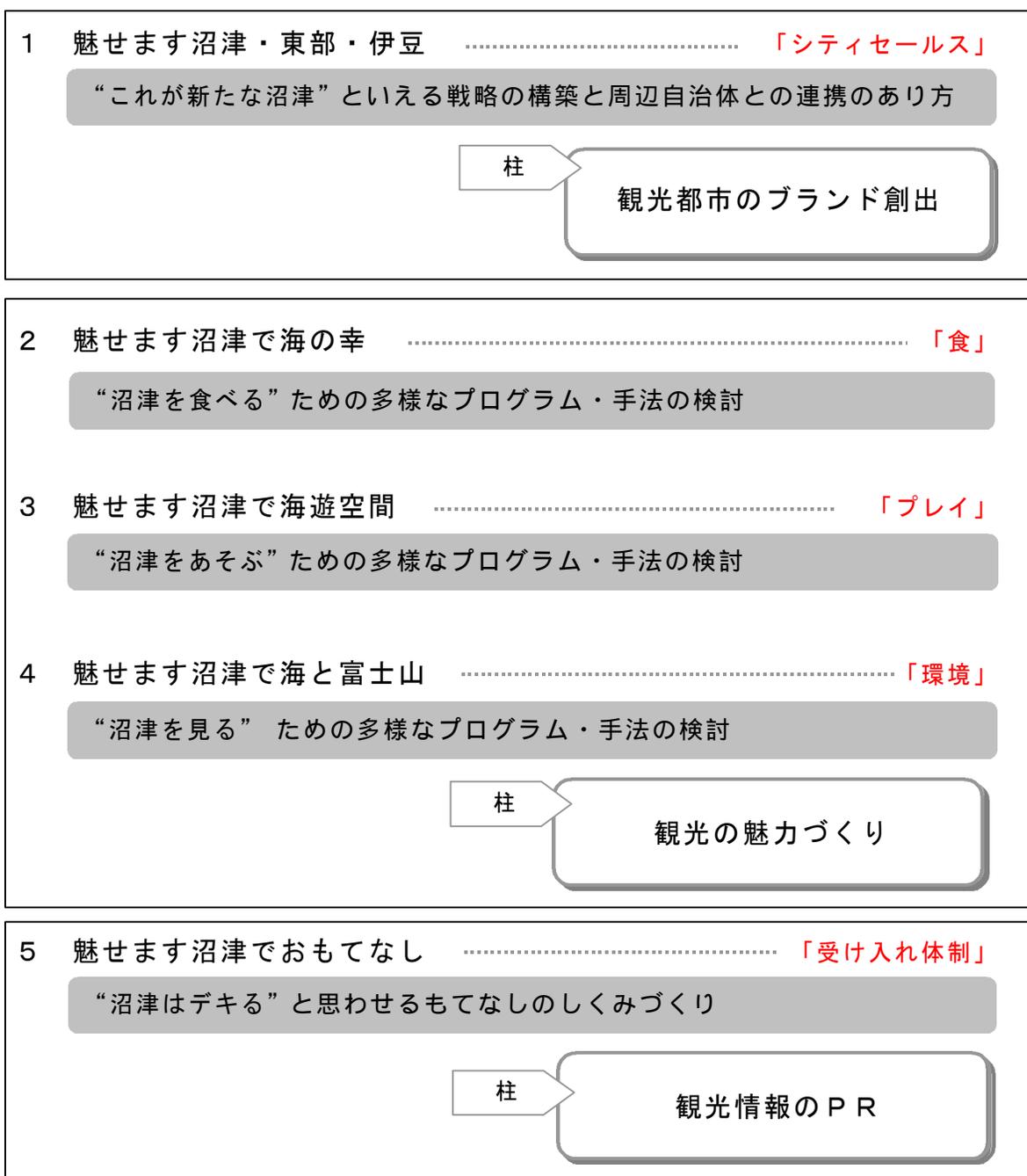
基本計画  
(14)

アクションプラン

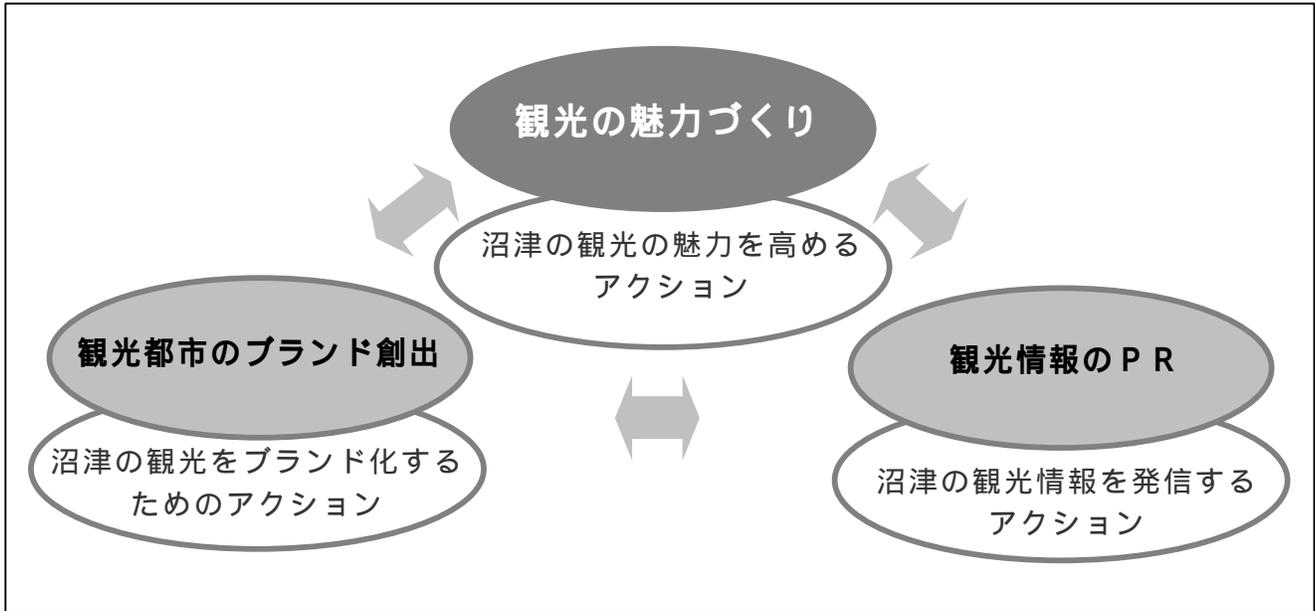
## 2 アクションプランの検討方針

### (1) アクションプランの柱

観光振興ビジョンでは、基本構想として《魅せます沼津》ではじまる「5つの目指すべき姿」を位置づけました。今回アクションプランを検討するにあたり、それぞれ「シティセールス」「食」「プレイ」「環境」「受け入れ体制」について述べた各構想の方向性およびテーマを再整理し、3つの柱立てに構成することになります。



アクションプランでは、ビジョンで示した「5つの目指すべき姿」を実現するために、食・プレイ・環境に関する各種プログラムの充実化を図り、それを売り込むためのブランド化戦略と各種プログラムの情報発信のプログラムを相互に関連づけて展開していきます。



## アクションプランの柱立て

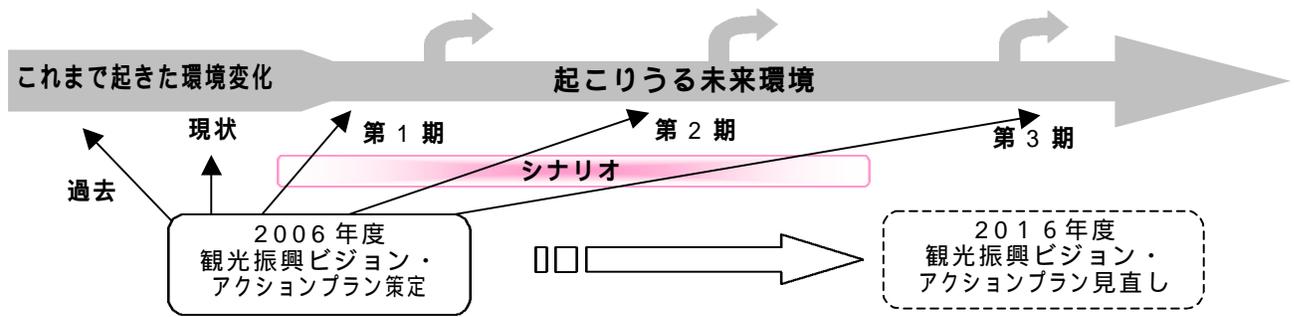
### (2) アクションプランの検討に向けて

観光振興ビジョンのような地域再生型のまちづくり計画は、地域コミュニティが経済・社会的に、文化・教育的にもこれまでのあり方を見直し、既存の能力（キャパシティ）を改善し、乗り越えていくプロセスといえます。

再生型のまちづくりを成功のプロセスに導くためには、「これまで起きた内・外部環境の変化」「今後起こりうる内・外部環境の変化」をそれぞれ考察し、それに基づいて評価指標を定め、戦略を講ずることが必要になります。

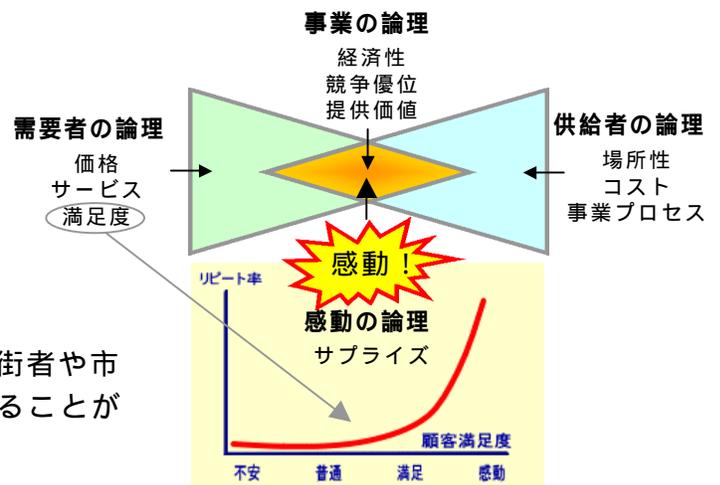
「希望的観測の入った一本線の未来予測」ではなく、内・外部環境の変化要因を捉えたうえで、「客観的に考えて起こりうる内・外部環境」を複数考察する必要があります。

それらのシナリオを前提として、取るべき戦略やアクションを策定することが求められます。



産業振興を成功させるには、事業の論理上、需要者側の論理と供給者側の論理の交点で成り立つという原則的な規則があります。しかし観光産業は、「感動を売る」商売であるともいえ、一種のサプライズ（驚き）をもって需要者の隠れたニーズを充足させる必要があると考えます。

アクションプランは、需要者つまり来街者や市民の立場に立って、感動を予測・追求することが大切です。



### (3) 数値目標

アクションプランの数値目標は、第3次沼津市総合計画（2001年～2010年）に基づき、沼津のまちづくりの進捗状況を数字で表した「沼津市まちづくり33指標」の内、指標7とします。

#### 指標7 1年間に沼津市を訪れた観光客の数

**計算方法** 市内の年間延べ宿泊客数 + 年間延べ観光レクリエーション客数

市内の観光施設やスポーツレクリエーション施設、イベントなどに訪れた観光交流客数から、沼津市の観光の状況を測る。

389万2千人（平成13年度）

416万3千人（平成17年度）

**目標** 455万人（平成22年度）

## 2 アクションプラン

ここでは、沼津市の観光振興ビジョンを具体化するアクションプランを17項目示します。17項目には、提案施策と進捗イメージを添えています。

進捗イメージとは、アクションプランを実行した際に起きるであろう将来の沼津市の観光振興の目標イメージを仮想的に表現したものです。

# 観光振興ビジョン アクションプラン

観光振興ビジョン	
目指すべき姿	基本計画
1 魅せます 沼津・東部・伊豆	A 観光都市のブランド創出
	B 沼津から県東部・伊豆地域への流れの創出
	C 県東部・伊豆地域から沼津への流れの創出
2 魅せます 沼津で海の幸	D 海の幸と食の充実
	E 加工・特産品の充実
	F 食のイベント・情報提供
3 魅せます 沼津で海遊空間	G 海遊空間の楽しみ創出
	H 海山の体験型観光の充実
	I イベントコンベンションによる交流拡大
4 魅せます 沼津で海と富士山	J 景観スポット整備
	K 環境の保全と向上
	L 歴史・文学資源の保全と活用
5 魅せます 沼津でおもてなし	M 快適観光への環境整備
	N もてなしの心を育てる

アクションの柱	アクションプラン	提案施策
観光都市のブランド創出	1 「ぬまづ海・道楽」のイメージ創出	(1) 沼津の強みをPR (2) 海のまちのイメージを強化する修景 (3) 海の景観形成ルールの作成 (4) シンボルマーク・グッズ作成（ぬまづらしさを識別） (5) ぬまづ海・道楽認定（普及・促進） (6) 観光姉妹都市の選定・締結 (7) 観光姉妹都市との観光協定締結
	2 海・道楽のシンボル作成	
	3 観光姉妹都市の選定・締結	
観光の魅力づくり	4 コンベンション・ビューローの設立、コンベンション誘致	(8) コンベンション・ビューローの設立 (9) コンベンションの誘致
	5 富士山ビューポイント整備	(10) 富士山ビューポイント整備
	6 海の駅・道の駅の整備	(11) 海の駅・道の駅整備とネットワーク化 (12) 夏ウェルカムプロジェクト実施 (13) すしコンテスト開催 (14) 「沼津ひもの」のイベント開催 (15) 「ひょっこりひょうたん島」プロジェクト支援 (16) マリンスポーツ大会の協賛・支援 (17) 模型船レース大会の開催支援
	7 海ウェルカムプロジェクトの実施	(18) 海釣り公園の整備 (19) 花の名所づくり (20) 夜景プロジェクト (21) 松城邸の再生、観光利用の検討 (22) 沼津垣による景観形成の推進
	8 新たな観光拠点の整備	(23) 朝市の活性化と夜市の新設 (24) 産業観光の推進 (25) ハイキングコース整備の充実 (26) ビーチクリーン活動の推進 (27) 千本松原の保全 (28) 御用邸記念公園を活用した観光都市のブランド向上 (29) 歴史的建造物等の保全再生の推進
	9 観光継続事業のさらなる推進	(30) B級グルメ・特産品等商品開発の取り組み (31) 沼津の食を伝承・開発する組織の充実 (32) 沼津の特産品を活用した料理教室 (33) タラソテラピー事業の開発 (34) 海洋深層水の利活用
	10 新規商品開発	(35) 「ぬまづ海・道楽」に向けた既存イベントの整理統合 (36) ロシアとの交流の歴史を活かした戸田地区観光施策の立案 (37) 戸田地区温泉利用促進施策のとりまとめ (38) （仮称）戸田地域活性化センターの整備・運営 (39) 戸田地区北山の棚田の利活用の推進 (40) 「エコリゾート」整備による井田地区観光振興の推進
	11 既存イベントの整理統合	(41) 観光拠点への移動円滑化 (42) 周辺自治体との連携 (43) 観光教育の推進 (44) オール沼津によるホスピタリティ向上
	12 戸田・井田地区魅力増進施策展開	
	13 広域で進める観光連携	
観光情報のPR	14 観光ひとづくり	
	15 ぬまづのひとによるPR	(45) 燦々ぬまづ大使・観光まめ大使の活用 (46) PR実施部隊の設立 (47) 観光案内の機能充実
	16 ぬまづのものによるPR	(48) 観光案内の機能充実 (49) 観光・地域ポータルサイトの作成 (50) 「ちょっと違う戸田」を強調 (51) 関東・甲信越地域へのPR (52) ターゲットを明確にしたPR (53) 外国人旅行者の誘致
	17 ターゲットを絞ったPR	

アクションの柱	観光都市のブランド創出
アクションプラン	1 「ぬまづ 海・道楽」のイメージ創出
提案施策	

- ( 1 ) 沼津の強みを P R
- ( 2 ) 海のまちのイメージを強化する修景
- ( 3 ) 海の景観形成ルールの作成

### アクションプランの進捗イメージ

海のまちの強みを活かし、五感を魅了する観光都市のブランドが築かれていく・・・

市では、観光都市のブランド「ぬまづ 海・道楽」の普及戦略がまとめられ、PR活動が本格化している。

また、沼津駅周辺の再開発、駅高架等の事業と沼津港の改修が終了し、将来へ向けてのまちの骨格ができ上がった。特徴は、海のイメージを基調とした修景整備が取り入れられている点である。

駅周辺商店街もリニューアル等が進み、再び賑わいを取り戻した。特に昭和30年代に作られ美観地区であるアーケードの再生は話題となった。

市外から沼津に来る人から、「沼津に入るとまち並みのムードが一変して気持ちよい」「伊豆旅行は沼津のスタート(ゴール)が最も楽しい」という意見が聞かれるようになる。

市街地はまち並みが美しく整備され、ドライブしていても心地よく、食や土産品も充実しているので、沼津に立ち寄っていく人が増えている。

景観づくりのルールにより、美しくなった海辺のまち並みを誇る市民が増え、日々の散策で海に歩いてくる機会が多くなり、黄昏時の千本浜一帯は一種のサロンのような雰囲気になり、洒落たカフェなども出店する。

こうして沼津で商売をしたいと思う事業者、Uターンする若者などが増え、まちに活気がみなぎるようになる。

沼津は「どこに行っても海沿いがいい」と答える人が、市内外に多く存在するようになり、沼津へ観光に来ることは、多くの人にとって特別で華やかな気分になさせてくれるようになる。

## 提案施策 1

### 沼津の強みを P R

#### 海産物拠点の位置づけと P R 強化

沼津港周辺を沼津の強みである「寿司」や「干物」の拠点として P R を強化する。

#### 高足ガニを戸田地区「食のシンボル」に育てる

戸田地区の強みとして高足ガニをより P R するため、多様な食し方の検討などを行う。

#### 「沼津ひもの」の付加価値を高めた P R の実施

沼津の魅力を干物の付帯情報とし、健康やスローライフなど時代性を帯びたキーワードとともに P R する。

#### 海・道楽が出来るぬまづを P R

60 キロの海岸線を有し、海がらみの楽しみを年間とおして体感できる沼津の強みを P R する。

## 提案施策 2

### 海のまちのイメージを強化する修景

#### ファイブエントランスの修景

J R 沼津駅、沼津インターチェンジ、沼津港、原駅及び三島駅の 5 つの交通拠点を中心に、「ここから海のまち・沼津」という認識を深められる修景を行う。

#### 専門家の活用

専門のコンサルタントやデザイナーの意見を取り入れ、華美でなく統一感があり、かつ、洗練された景観に配慮した修景とする。

#### 防風および日射対策

快適に歩いて観光できるように、観光スポット周辺や施設の間に適宜日陰と防風目的の施設や樹木を整備する。

### 沼津らしい素材を活用する修景

黒松など既存の樹木を適宜活用したり、生垣やベンチなど海のまちの沼津らしい素材や景観に配慮したものとするなど、公有地だけでなく補助金等を制度化して民有地も積極的に修景の誘導を図る。

### 景観地区の積極的な修景

景観地区であるアーケード街は、1階部分のセットバックによる連続的な歩道空間を海辺のしゃれたショッピング街に変身させるなど、観光振興の側面から景観形成について検討する。

## 提案施策 3

### 海の景観形成ルールの作成

#### 景観に配慮した港のあり方の協議

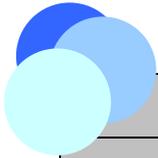
漁業事業者や民間マリーナ等と共同で、停泊のルールや色彩など、景観に配慮した港のあり方について協議し、港の景観形成に寄与する取り組みを推進する。

#### ダイビングスポットの海浜利用ガイドライン作成

ダイビング関連事業者や利用者と協働で、占用物の形態や修景、海浜利用に関するガイドラインづくりを行う。

#### 大瀬地区の総合的なルールづくりの推進

環境保全と健康振興、ライフライン整備を基本に、観光中心の大瀬地区のまちづくりは一定のルールづくりを行うことにより、ダイバーだけでなく一般観光客にとっても魅力的なビーチリゾートとして育む。



アクションの柱	観光都市のブランド創出
アクションプラン	2 海・道楽のシンボル作成
提案施策	

(1) シンボルマーク・グッズ作成 (ぬまづらしさを識別)  
(2) ぬまづ 海・道楽認定 (普及・促進)

### アクションプランの進捗イメージ

シンボルマークなどがイキイキとまちに溶け込んでいる・・・

シンボルマークやイメージキャラクターを開発したことにより、観光都市のブランド「ぬまづ 海・道楽」の普及が進んでいる。

市内業者は、シンボルマークの利用権を取得できたり、観光ポータルサイトではインターネット販売ができるといったぬまづ 海・道楽認定に関心を示している。

また、イメージキャラクターはスポーツイベントやお祭りなどに参加して、ぬまづ燦々レディーに負けない人気である。特によさこい東海道では、着ぐるみマスコットが市内チームと踊りを披露して、観光振興に一役買っている。

## 提案施策 1

### シンボルマーク・グッズ作成（ぬまづらしさを識別）

#### 観光都市のブランド育成

沼津の観光振興を推進する際重要なことは、観光都市のブランドとして「ぬまづ」を創出し向上することである。

そのため、「海」をキーワードとした「ぬまづ 海・道楽」の普及に努め、海＝ぬまづという観光都市ブランドの育成を推進する。

#### シンボルマーク・グッズ作成

「ぬまづ 海・道楽」の特徴や理念を体系的、簡潔に表すために、シンボルマークやグッズを作成するなど、一般顧客からみて「ぬまづらしさ」が、識別できるようにする。

## 提案施策 2

### ぬまづ 海・道楽認定（普及・促進）

#### 認定制度の検討

「ぬまづ 海・道楽」のPR方法、戦略的な事業推進について、事業者、市民及び学識経験者等を交えて認定制度の検討を行う。

#### 認定制度の普及

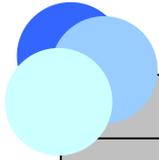
寿司や干物などの個別ブランドやイベントなどに対して、「ぬまづ 海・道楽」認定を与え、普及・促進を図る。

#### 事例

<クリエイティブシティ ヨコハマ>（横浜市）

横浜市は、歴史的建造物や都市景観などの地域資源を活用し、文化・芸術に象徴される創造的な活動が展開されることで都市の魅力を高め、経済の振興を図る「クリエイティブシティ（文化芸術創造都市）」を目指している。部局を横断して取り組む「開港 150 周年・創造都市事業本部」の発足にあわせロゴマークを発表した。





アクションの柱	観光都市のブランド創出
アクションプラン	3 観光姉妹都市の選定・締結
提案施策	

(1) 観光姉妹都市の選定・締結

(2) 観光姉妹都市との観光協定締結

### アクションプランの進捗イメージ

知見を外に向けることで、自分たちのまちを見直すことに・・・

姉妹都市選定における事前調査により、富士山の麓にあり、海がきれいで寿司が美味しい東洋のまちという条件は、世界でもアピールできる強みであることがわかった。

山や海、これまでの交流の実績や歴史などをきっかけに多様な都市から姉妹都市提携の話が舞い込んできた。

そして海外の海浜リゾート地との姉妹都市提携と観光施策に関する協定も結ばれ、経済面でも交流が活性化することに期待感が膨らむ。

かつての風光明媚な避寒地としての沼津を再生するまちづくり活動が盛んに行われるようになり、市民意識が向上し、海辺のまち並みが美しく修景されるきっかけにもなった。

## 提案施策 1

### 観光姉妹都市の選定・締結

#### 観光姉妹都市の選定・締結

海外の海浜リゾート都市や観光都市と姉妹都市提携を結び、交流を促進する。

沼津市は、現在**カラマズー市**（米：ミシガン州）及び**岳陽市**（中国：湖南省）と姉妹・友好都市なので、欧州またはオセアニアなどに絞り、提携都市の選定検討を行う。

#### 戸田地区とロシア、井田地区とアメリカの交流の歴史活用

戸田地区のロシア、井田地区のアメリカとの交流の歴史を観光振興に活用する。

## 提案施策 2

### 観光姉妹都市との観光協定締結

#### 観光姉妹都市との協定

観光協定は、交流だけでなく経済的な結びつきを主にすることが重要である。文化振興やスポーツ交流だけでなく、貿易、中小企業振興及び商店街活性化など市内の民間事業者の発展を意識したものとする。

#### 有名海浜リゾート地と国内の海浜都市との姉妹都市の例

ナポリ（伊）	-	鹿児島市（火山の共通性）
パース（豪）	-	鹿児島市（海の共通性）
ニース（仏）	-	鎌倉市（海、古都の共通性）
マイアミ（米）	-	藤沢市（海の共通性）
カンヌ（仏）	-	静岡市（海の共通性）
サンレモ（伊）	-	熱海市（海と山の共通性）

#### 事例

##### <観光協定の締結>（福井県）

福井県では、経済発展が著しい東アジアからの観光客誘致が、国内地域間競争の激化と共に極めて重要との判断から、県観光連盟は、中国浙江省、台湾政府（台湾国際教育旅行連盟）と観光協定を締結し、施策連携を図ることになった。（平成 18 年）

アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	4 コンベンション・ビューローの設立、コンベンション誘致
提案施策	<p>(1) コンベンション・ビューローの設立</p> <p>(2) コンベンションの誘致</p>

### アクションプランの進捗イメージ

コンベンションの開催効果が観光振興に波及していく・・・

県東部地域における交流拠点として、沼津の役割が大きくなっている。  
 特にコンベンション・ビューローが設立され、県東部地域のもつ都市機能や観光の魅力をもPRし、積極的な活動が展開されるにつれ、国内外から各種のコンベンションが誘致できるようになった。  
 コンベンションの開催に合わせ、研修旅行や工場見学、市場見学が組み込まれるなど観光の形態も多様さをみせるようになった。

## 提案施策 1

### コンベンション・ビューローの設立

#### コンベンション・ビューローの設立

県東部地域 8 市 5 町と協力し、県東部地域コンベンション・ビューロー（仮称）を開設する。

## 提案施策 2

### コンベンションの誘致

#### 営業活動の実施

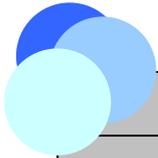
新たなコンベンションの積極的誘致に向け、過去に沼津を含めた 8 市 5 町で開催実績のある団体や、コンベンション開催のキーマンに、重点的なセールス訪問を行うことにより、新たなコンベンションの獲得や、他の主催団体・コンベンションの情報収集等を図る。

#### アフターコンベンションの P R

旅行業界などとの連携により、アフターコンベンションのための観光ルートやプログラムの開発を誘導する。

#### コンベンション情報の充実

コンベンションに関するホームページを開設し、開催実績、スケジュール、市内施設、観光施設など、主催者の関心を引き付ける情報を充実させる。



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	5 富士山ビューポイント整備
提案施策	

(1) 富士山ビューポイント整備

### アクションプランの進捗イメージ

海や富士山に親しむ機会が増え、市民も景観に関心を示していく・・・

沿岸の道路は曲がりくねった箇所が多く、視界も開けているわけではないが、次々と現れる入り江からは、多様な表情の富士山をみることができる。途中途中で、富士山への眺望景観を味わうことの出来るスポットが整備され、ドライバーの疲れを癒す場となっている。また、どのスポットも四季折々の花で、さりげなく旅行者をもてなしている。

御用邸記念公園から三浦、大瀬、戸田に至るルートが人気のドライブコースとして認知され、沿道には海と富士山を眺められる洒落たカフェや地場産品の販売所なども立地するようになる。

### 三浦地域ビューポイントの充実

特に三浦地域は、戸田地区と比較してビューポイント整備が遅れているので、平成 18 年度に整備された西浦立保に続き、県道等の道路整備とあわせ、海越しの富士山を眺望できるポイントを重点的に整備する。

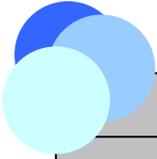
### ビューポイントの便益施設整備

整備に際しては、過剰な維持管理が掛からないように適切に駐車場と便益施設の整備を行う。

### ハイキングコースとの連携

沼津アルプス、発端丈山及び井田地区など優れた富士山ビューポイントの整備を行う。

富士山ビューポイント整備後は、各ポイントの特徴を簡潔にまとめて情報発信し、ドライブやハイキングといった移動型のレジャー活動との連携を進める。



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	6 海の駅・道の駅の整備
提案施策	

### (1) 海の駅・道の駅整備とネットワーク化

#### アクションプランの進捗イメージ

市民にも幅広く利用される地域密着型の施設に・・・

「ぬまづ 海・道楽」の情報発信基地として、「道の駅」や「海の駅」は連日生鮮品等が届き、訪問客で賑わっている。  
道の駅には山の幸、海の駅には海の幸という明確に商品構成が棲み分けされており、ドライブ旅行では、各施設を楽しく回遊できる。  
伊豆や県東部地域との情報交流も活発で、宿や温泉情報などを検索予約できる体制が取られている。渋滞など交通情報も広い地域でリンクされている。  
また、ドライバーだけでなく、地域にも開かれた施設となり公民館のような役割を果たしている。

### 原地区、三浦地域、戸田地区への整備

道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や市民のための「情報発信機能」などを備える「道の駅」を原地区へ、また海上の同様機能としての「海の駅」を三浦地域、戸田地区に新たに整備し、既存駅も含めネットワークすることで、観光需要に応える必要がある。

### 相互情報網の充実

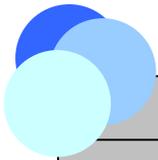
県東部地域および伊豆地域内にある道の駅、海の駅を観光情報の拠点として有効活用するために、インターネット環境やライブ中継設備等を整備して伊豆全域の観光情報や道の駅の利用状況等が受発信できるようにする。

### ソフトプログラムの充実化

スタンプラリーなど共同キャンペーンを実施し、県東部地域や伊豆地域を楽しく快適に移動するためのプログラム化を図る。

### らららサンビーチ等他の観光スポットへのアクセス検討

海水浴場として人気の高いらららサンビーチや御用邸記念公園等への海の駅からの観光客の二次交通について利便性を高める。



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	7 海ウェルカムプロジェクトの実施
提案施策	

(1) 夏ウェルカムプロジェクト実施

(2) すしコンテスト開催

(3) 「沼津ひもの」のイベント開催

(4) 「ひょっこりひょうたん島」プロジェクト支援

(5) マリンスポーツ大会の協賛、支援

(6) 模型船レース大会の開催支援

### アクションプランの進捗イメージ

沼津で過ごすひと夏の思い出風景のようす・・・

夏になるとその年の海・道楽テーマが設定され、沼津市中で装いが華やかになり、至るところで観光客を迎える体制に入る。

プロジェクトの目玉は、「すしコンテスト」である。世界中から寿司職人と寿司目当ての観光客が多数集まり、旅番組やグルメ番組の取材も多くなる。ホテルや著名店による職人の引抜きが行われ、寿司業界でも注目のイベントになりつつある。

観光客を迎えるまち並みは、民間レジャー施設も参加し、イメージカラーによって統一され、歩くだけでもバカンス気分に浸れる。

市民団体の中では、マリンスポーツに特化した総合型スポーツクラブが設立され、色々なマリンスポーツ種目のノウハウが蓄積されつつある。

中でも、海上のトップアスリートが集うウィンドサーフィンの新しいメッカとして、沼津は確固たる地位を築き、熱い戦いが繰り広げられる。

自然体験は、ひょっこりひょうたん島をモチーフに、子どもを対象とした市内の複数のハイキングコースやカヌー教室が開かれる。ゴールはエコリゾートの井田地区である。

## 提案施策 1

### 夏ウェルカムプロジェクトの実施

#### 総合的な歓迎ムードの演出

夏の一定期間、沼津駅や沼津港などのシンボリックな場所、海水浴場及び戸田地区などにおいて、統一した歓迎バナーやフラワーポット、パラソルなどを設置し、まちを挙げての歓迎ムードを演出する。

#### 事例

<パラソルの統一化>（神奈川県逗子市）

湘南の逗子市では、市の実施計画に海岸のパラソル統一を位置づけた。景観計画、景観条例の施行（H18）に前後して、逗子海岸の海の家の出店事業者と協力して、景観形成に取り組んでいる。（右写真はイメージ写真）



## 提案施策 2

### すしコンテスト開催

#### すしコンテストの開催

技能五輪国際大会の本市開催を契機に、沼津市のオリジナル競技として国内外の寿司職人を招聘してコンテストを開催し、寿司のまちとして世界にアピールする。

## 提案施策 3

### 「沼津ひもの」のイベント開催

#### 「沼津ひもの」をPRするイベントの開催

干物の技術を紹介するイベントを開催し、干物のまちとして世界にアピールする。  
沼津港港湾振興ビジョンにともなう新魚市場、マーケットモール建設に合わせて、施設内で行う各種イベントも検討する。

## 提案施策 4

### 「ひよっこりひょうたん島」プロジェクトの支援

#### 市民活動の支援

「ひよっこりひょうたん島資料館を作る会」等、市民団体の取り組みを支援するとともに、ひよっこりひょうたん島のあるまちとして各種プロジェクトを推進する。

NHKのキャラクターを扱う店舗を商工会議所等に打診したり、タイトルロゴの版権の許可取得に取り組むなど、各種手続きについて市民団体の意向に配慮する。

#### 説明

<ひよっこりひょうたん島とは>

1960年代後半、NHK総合テレビで放送された人形劇で、子どもたちの人気を得た。ドン・ガバチョなど個性豊かなキャラクターたちが、ミュージカル形式で笑いや風刺を込めながら冒険していく物語を繰り広げた。印象的な主題歌を含め、現在でも多くの人びとに人気を博している。



(資料)ひよっこりひょうたん島ファンクラブHP

## 提案施策 5

### マリンスポーツ大会の協賛、支援

#### マリンスポーツ大会への協力強化

ヨット、ウィンドサーフィン、ダイビングなど多様なマリンスポーツの大会を誘致し、沼津の海のイメージ定着に活用する。毎年、牛臥海岸で開催されるオールジャパンウィンドサーフィンチャンピオンシップ・イン沼津などを(ウィンドサーフィン5種目の全日本選手権大会及び世界大会出場選手権大会)支援し、マリンスポーツのまちとしてPRする。

#### マリンスポーツ関連団体等との連携

マリンスポーツ関係者、スポーツNPOや各種団体などとの連携を密にし、誘致により沼津のイメージが向上する種目の選定や開催方法について協議する。

#### 事例

<皆生トライアスロン大会>（鳥取県米子市）

米子市皆生海岸はわが国のトライアスロン発祥の地とされ、大会は今年で 26 年目を迎えている。もともとは市の旅館組合青年部の有志で企画されたものであったが、今では、地元新聞社を筆頭に大企業のスポンサー以外にも、地元ボランティアが数多く大会に参加して盛り立てている。

（資料）皆生トライアスロン大会 HP



#### 事例

<NPO 法人いわてマリンフィールド>（岩手県宮古市）

市民に対して、海洋スポーツと水辺活動の企画、実施、個人及び団体の行う海洋スポーツと水辺活動に対する支援を行い、海洋スポーツ普及、生涯学習への支援及び自然環境を保護することに寄与する目的で設立したスポーツNPO。ヨット、シーカヤック、遠泳、海底植物調査、ヨットハーバーの管理運営受託など様々な事業を行なう。スポンサーには地元企業が名を連ねている。

## 提案施策 6

### 模型船レース大会の開催支援

#### 模型船レース大会の開催

戸田地区が洋式造船技術発祥の地というオンリーワンの条件を活かし、県内にある世界的に著名な模型メーカー等とのタイアップを行うなどし、模型船のレース大会の開催を企画する。

開催場所については、沼津地区の「門池」や井田地区の「明神池」を候補とする。

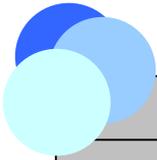
#### 事例

<柳川ソーラーボートレース大会>（福岡県柳川市）

美しい掘割で有名な柳川市では、掘割景観・環境の保全に対する普及啓発を進めるために、掘割を活用する観光施策としてソーラーボートレース大会を開催している。大学の機械工学研究室から子どもまで、広く参加者を集めている。

（資料）柳川市観光協会 HP





アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	8 新たな観光拠点の整備
提案施策	
<p>(1) 海釣り公園の整備</p> <p>(2) 花の名所づくり</p> <p>(3) 夜景プロジェクト</p> <p>(4) 松城邸の再生、観光利用の検討</p> <p>(5) 沼津垣による景観形成の推進</p>	

#### アクションプランの進捗イメージ

新しい沼津の魅力がさらに人を引き付けていく・・・

普段は一般公開されている人気スポットの松城邸は、沼津の奥座敷・戸田の迎賓館としての機能も発揮し、VIPをもてなす場ともなっている。御用邸記念公園や千本浜周辺では、沼津垣の活用による修景が促進され、かつての風光明媚な保養地としての面影が復活してきた。市街地の夜は、シンボルとなったびゅうおのライトアップを中心に、狩野川沿いや千本浜などでは灯籠のようなやさしい光に誘われそぞろ歩きが楽しめる。

## 提案施策 1

### 海釣り公園の整備

#### 整備の検討

本市では、浜釣り、磯釣り、船釣りなど様々な形で釣りが出来るが、四季を通じて初心者からベテランまで幅広く家族連れ等も安心して楽しめる海釣り公園がない。そのため、海釣り公園の需要及び事例、地元意向、漁業関係者等の意向等を調査し、整備に向けた課題の整理を行う。

#### 重点検討ポイントの選定

らららサンビーチ磯浜整備（西浦漁港海岸整備事業）をはじめ、三浦・戸田地区の海岸において海釣り公園の整備を行う重点検討ポイントの選定検討を行う。

## 提案施策 2

### 花の名所づくり

#### 桜の名所づくり

さくらの名所づくり推進事業の進捗を図るとともに、県道などの道路整備とあわせ、新たに桜を植樹するなど桜の名所づくりを継続的に推進する。

#### 休耕田の活用

休耕田等を活用した菜の花やひまわりなど、花の名所づくりを継続的に支援・推進する。

#### 自生種を尊重した整備

浜ユリなどの自生植物群落の保全、サクラやコブシなどの並木道整備、園芸種中心の花壇整備など、場所と地域性に配慮したテーマ性のあるスポットを適宜整備する。

#### 他事業との連携

「原・浮島自然ふれあいの里整備事業」等、自然環境を活かした事業との整合、連携を図り、観光振興に活かす取り組みを進める。

#### 事例

<フラワーツーリズム>（千葉県館山市）

温暖な気候の千葉県南房総は、首都圏より一足早く春が訪れるために、早春の花のイメージが定着している。しかし、季節の偏りや集客数に比して地域への経済効果が必ずしも大きくないことから、花卉生産者や宿泊事業者などが連携して、花をテーマにしたアレンジメントや料理教室などの企画を開発して、新たな観光振興に取り組んでいる。（資料）館山市観光協会 HP



### 提案施策 3

### 夜景プロジェクト

#### 香貫山の重点化の検討

本市の夜景は、市街地の明かり、主要幹線道路を走る車のライトの帯、駿河湾や千本浜の漆黒さ等がコントラストを織り成し、大変美しい景観を作り出す。この夜景を眺望するスポットとして市街地に位置する香貫山は絶好の場所である。

現在のところ、アクセス面等で課題も多いが、香貫山を沼津の夜景スポットとして活用することは、本市の夜のにぎわいづくりには大変重要であるため、夜景スポットの整備に向け検討を行う。

#### 夜間の回遊性の創出

今後は千本浜公園や御用邸記念公園、びゅうお等、主要施設との連携を深め、港周辺の回遊性に繋がるように取り組む。

### 提案施策 4

### 松城邸の再生、観光利用の検討

#### 景観に配慮した整備の推進

戸田松城邸保存活用事業に基づき、整備後の松城邸の観光利用について検討する。

#### 周辺エリアの修景

周辺地区についても道路や橋、護岸などの修景を行い、散策等が楽しくなる仕掛けを施す。

### 提案施策 5

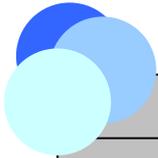
### 沼津垣による景観形成の推進

#### 積極的な活用としくみづくり

千本松原から御用邸記念公園周辺の公共施設等に、沼津垣を積極的に活用するとともに、周辺の民家や事業者にも活用を促す指針や助成を行い、景観形成を図る。



びゅうおライトアップ



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	9 観光継続事業のさらなる推進
提案施策	
<p>(1) 朝市の活性化と夜市の新設</p> <p>(2) 産業観光の推進</p> <p>(3) ハイキングコース整備の充実</p> <p>(4) ビーチクリーン活動の推進</p> <p>(5) 千本松原の保全</p> <p>(6) 御用邸記念公園を活用した観光都市のブランド向上</p> <p>(7) 歴史的建造物等の保全再生の推進</p>	

### アクションプランの進捗イメージ

沼津の魅力・印象をさらに補強していきます・・・

沼津の朝市は、毎回趣向を凝らした限定食、魚介類に限らない多様なサービスの提供が目玉となり、駿河湾随一の賑わいを見せ、出店を希望する事業者がキャンセル待ちの状態となっている。

夜市は、出店のほかに音楽、映画上映会、詩の朗読会など文化的なプログラムを取り入れた品のある洒落た内容で構成され、老若男女がお気に入りのテーマに応じて参加している。

御用邸記念公園を活用した様々なイベントは、沼津のまちとしての品格を高める役割を担い、観光都市のブランドの価値を確固たるものとしている。海岸や松林などでは清掃活動が行き届き、常に清潔で美しい景観を保っている。景観スポットがあるハイキングコースでは、散策が気楽に楽しめるようになっている。コースは伐採木をチップ化して敷き詰め、歩行しやすく整備されている箇所もある。

ハイキングコースからは駿河湾に面した漁村集落を見渡すことができる。また、屋根の色が揃い、見事な景観を味わえる。

市民が中心となった清掃活動は、企業や商店街など多様な主体の参加を得て社会貢献活動としても行われている。清掃活動と朝市が協働で行われるなど、一般市民も参加しやすい取り組みになっている。

## 提案施策 1

### 朝市の活性化と夜市の新設

#### 朝市の活性化

沼津魚市場の移設にあわせて、朝市（奥駿河湾日曜市など）を活性化させる。

#### 多様な人材の活用

漁業関係者だけでなく市内の飲食業者が積極的に参加する総合的な市（いち）とすることで、来訪者だけでなく地元住民の交流の場となるしくみとする。

#### 特別メニューの提供

朝市でしか食せない漁師料理、季節限定料理など目玉となるメニューを検討する。

#### 夜市の差別化による魅力づけ

夜市は、朝市と品揃えやメニューを変えて差別化を図り、共に違いを楽しめるイベントとする。また、音楽や演劇、野外映画鑑賞、ライトアップなど夜のにぎわいにふさわしい催しを企画する。

#### 夜市へのアクセス条件の向上

温泉宿への送迎などアクセスの利便性について各方面と連携する。

## 提案施策 2

### 産業観光の推進

#### 技能五輪跡地への企業誘致

技能五輪国際大会の開催跡地への企業誘致を継続的に実施する。

#### 産業観光に対する理解の促進

市内に進出する工場に対しては市民をはじめ観光客が気軽に楽しく生産工程などを見学できるコースや憩いのスペースを設けるなど、健康と環境を軸としながらも産業観光に配慮した施設運営を行うように誘導する。また、既存の市内企業にも、同様の整備を推進するように働きかける。

#### 既存事業との連携

体験観光として、既存の親子ものづくり体験ツアーを有効活用する。

### 提案施策 3

#### ハイキングコース整備の充実

##### 快適なコース整備の実施

沼津アルプスや発端丈山、西伊豆遊歩道など市内のハイキングコースは、歩道をウッドチップなど歩きやすい環境に整備したり、道標や案内看板を立てる等、コースの利用を促進するための整備を行う。

##### 市民団体との連携の促進

草木伐採や簡単な修復作業といった維持管理は、市民活動団体などとの協力により、年間を通して計画的に行う。

### 提案施策 4

#### ビーチクリーン活動の推進

##### 開催、支援の充実

浜の環境保全と啓発を目的に、ビーチクリーン活動を積極的に開催、支援する。

##### 参加を促すプログラムの検討

清掃活動に合わせて、フェスタ・コスタ・デル・ゴミのような各種イベントを開催するなど、市民や企業などが楽しみながら社会貢献活動を行えるようなプログラム化を図る。

活動への参加実績が商店街のポイントカードに加算されるなど、多様な参加のしくみについて検討する。

### 提案施策 5

#### 千本松原の保全

##### 保全推進のしくみづくり

県の駿河湾沿岸海岸保全計画を基に、全国松原 100 選にも選ばれた東海道随一の景勝地として知られている千本松原の保全を推進する。松原保全のための、基金制度や組織づくりを進める。

##### 既存事業との連携

沼津文学のまちづくり推進事業との連携を図り、松原を有効活用する。

## 提案施策 6

### 御用邸記念公園を活用した観光都市のブランド向上

#### 観光都市としてのブランド力向上のための素材づくり

皇室が沼津の風土を好んで造営した沼津御用邸の歴史や造営後の利用のされ方、逸話などを掘り起こし、観光都市としての沼津ブランド構築の素材として活用する。

#### 和のイベントの充実

和菓子や和装関連業界、茶道や華道、能・狂言等の文化団体と連携したイベントを毎年継続的に開催し、沼津に根付く日本の伝統文化（和文化）をPRする。

#### 公園マネジメントの実施

公園マネジメントの一環として、PR効果のある企業のレセプションや新製品発表会、文化イベントなどに沼津御用邸記念公園を貸し出すことで、沼津のブランド力の向上に繋げるとともに、その利用収入を維持管理運営費にあてる等の検討を行う。

#### 他の観光資源との連携・協調

沼津市内はもとより県東部地域の観光施設とも連携・協調して、観光、保養や景観を切り口に、共通の課題やまちづくりのアイデアを学習するフォーラムを開催する。併せて、キャンペーンやイベントの実施、相互乗り入れによるPRチラシ・ポスターの製作や掲示など、この県東部地域のそれぞれが持つ観光資源を特徴づけて有機的に結びつけることを実践していく。そうした中で御用邸のあるまちとして観光都市のブランド沼津をさらに高めていく。

## 提案施策 7

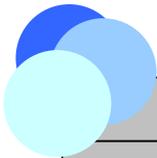
### 歴史的建造物等の保全再生の推進

#### 城跡整備の推進

北条氏が北条水軍の拠点の一つとして築城した長浜城跡周辺は、[長浜城跡保存整備事業](#)に基づき、富士山への眺望も得られる場として整備する。城跡までの道のりについては、ハイキングコースとして歩行環境に配慮した整備をする。同様に[興国寺城](#)についても[興国寺城跡保存整備事業](#)に基づき整備を推進する。

#### 散策コース整備の推進

戸田港のかつての海岸線や海岸通りだった裏路地の調査・整備や、原地区の「[白隠のみち整備事業](#)」に基づく、歴史的な地域資源の活用などの取り組みを進める。



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	10 新規商品開発
提案施策	

(1) B級グルメ・特産品等商品開発の取り組み

(2) 沼津の食を伝承・開発する組織の充実

(3) 沼津の特産品を活用した料理教室

(4) タラソテラピー事業の開発

(5) 海洋深層水の利活用

#### アクションプランの進捗イメージ

##### 新しい沼津をさらに印象づける・・・

まち中では沼津の素材を利用した料理教室が人気で、バスツアーも訪れている。

市場は、厳しい行程がかえって中高齢者に人気の四国八十八ヶ所霊場巡りの対極に位置づけられている愉快的なプログラムが満載の東海道五十三次道中ツアーで賑わいを見せている。

食だけでなく、海草を使ったセラピーやミネラル分の豊富な化粧品の開発にも成功した点が、沼津の名を若いOLが受け入れた理由として挙げられる。また、地産の海の素材を活用したB級グルメの開発にも成功し、富士宮の焼きそばと抱き合わせて食べ歩きツアーを敢行する若者が多くなっている。このように沼津の食が観光資源として際立った存在として確固たる地位を築いたのは、食に関する市民活動組織の絶え間ない試行錯誤、沼津の食ブランドの確立を目的とした体験学習や給食事業、食育の大切さを根底に置いた地道な活動があったことに起因する。

## 提案施策 1

### B級グルメ・特産品等商品開発の取り組み

#### 地域事業者との連携による開発

鮮度のよい沼津の魚を素材に事業者とともに、御用邸やロシア、文学などの沼津らしい“うんちく”を盛り込んだB級グルメのメニューを開発する。

#### 多様な商品開発の実施

あじ井等、出張帰りのビジネスマンなどが手軽に食せる加工品（練り物が有力）を開発する。仙台「笹かまぼこ」焼津「黒はんぺん」小田原「板かまぼこ」鹿児島「薩摩揚げ」など地域名を盛り込んだ商品化を目指す。

また、海のミネラルを活かし、生体調節機能を強調した機能性食品の開発や地元銘菓の開発を支援する。

## 提案施策 2

### 沼津の食を伝承・開発する組織の充実

#### 組織づくりの充実

飲食店や加工品製造業といった産業界、漁協や農協といった各種団体、婦人会などの市民団体と協同で、沼津の食を伝承、開発する組織の充実を図る。

## 提案施策 3

### 沼津の特産品を活用した料理教室

#### 沼津らしいプログラムの開発

市民を対象とした沼津の特産品を活用した料理教室を開催する。干物の作り方などの技術を習得できる沼津らしい料理教室を開催する。

また、料理教室において、戸田塩を活用するなど地域の素材をPRする取り組みを行う。

#### 食育を意識したプログラム展開

干物や塩、鰹寿司などの生産工程を疑似体験できる場をつくり、観光コースとして活用する。保健所や福祉団体との協力のもと、食育や給食サービス事業などを展開する。

## 提案施策 4

### タラソテラピー事業の開発

#### 調査検討の実施

海外事例や国内の先進事例(焼津市など)を調査し、事業化に向けての検討を行う。

## 提案施策 5

### 海洋深層水の利活用

#### 調査検討の実施

駿河湾深層水の利活用に関する検討を行う。深層水の利活用に関する先進事例を調査し、沼津らしい商品化のアイデアを検討する。

養殖などへの活用についても、漁協など民間の意向を把握し、新焼津漁港内の県「駿河湾深層水水産利用施設」との連携等を進めるなどが考えられる。

#### 事例

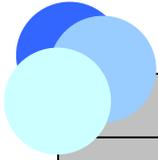
<養殖事業等の展開>(富山県入善町)

北アルプスの豊かな雪解け水が大量に流れ込む富山湾沿岸の入善町では、300m以深にある低温の「日本海固有水」を活用した事業が行なわれている。水産分野では高鮮度で良質な深層水アワビの安定出荷に取り組むなどしている。

(資料)入善町HP







アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	11 既存イベントの整理統合
提案施策	

(1)「ぬまづ 海・道楽」に向けた既存イベントの整理統合

### アクションプランの進捗イメージ

スッキリと整理統合された各種イベントの効果・・・

数多くあったイベントが 主旨、内容、季節、歴史性などを切り口に整理統合されたことにより、「ぬまづ 海・道楽」のコンセプトがより鮮明になる効果がでた。

また、資金や労力の選択と集中により、ひとつひとつのイベントの内容が濃くなっている。

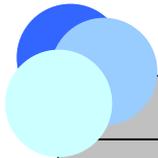
イベント運営の ノウハウが継承されるしくみづくりも整備された。

### 選択と集中によるイベントの整理統合の推進

沼津・戸田地区で開催されている各種イベントの効果を評価し、整理統合する方向で検討を進め、「海のまち沼津」の統一イメージを打ち出せるように年間イベントプログラムを再構築する。

### セントラルパーク祭の実施

狩野川周辺の既存イベントを「**セントラルパーク祭（フェスティバル）**」として整理統合し、共通のロゴやグッズなどを作成し、中心市街地の求心力を高める活性化プログラムとして位置づける。



アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	12 戸田・井田地区魅力増進施策展開
提案施策	<p>(1) ロシアとの交流の歴史を活かした戸田地区観光施策の立案</p> <p>(2) 戸田地区温泉利用促進施策のとりまとめ</p> <p>(3) (仮称) 戸田地域活性化センターの整備・運営</p> <p>(4) 戸田地区北山の棚田の利活用の推進</p> <p>(5) 「エコリゾート」整備による井田地区観光振興の推進</p>

### アクションプランの進捗イメージ

戸田が魅力を増していった模様です・・・

まちなかには、ロシア語を併記する標識や看板が見られ、戸田の特産品を素材にしたロシア料理を出す店が繁盛している。

ロシアとの交流やまちづくりの様子が旅行番組で紹介され、観光客が増えている。

井田地区では多様な自然体験ができる拠点として、多くの参加者が集まっている。毎夏、沼津育ちのたくましい子どもが生まれていく。

温泉施設が充実した戸田地区では、保養を兼ねたロングステイの家族連れで賑わい、活性化センターでは市民団体主催のウェルカムイベントが開催されている。

地元農家や市民団体が積極的に棚田運営を行い、毎年戸田ファンの棚田オーナー家族が田植え、稲刈り、精米等の作業に集まる。

### 姉妹都市の提携

ロシアの海浜リゾート地と姉妹都市提携を結び、市民交流を深める。

### 各方面への情報提供

静岡富士山空港の就航予定先の候補に極東ロシアの都市（ハバロフスク、ウラジオストック等）を要請する。

わが国の極東ロシアの玄関口である新潟市や小樽市、及び両市の旅行業者に沼津の観光をPRする。

### 史実に関する絵本の作成

ディアナ号の沈没から救助、支援、離日までの物語を絵本にするなど子どもにもわかりやすい形で語り伝えられるようにする。

### まち並み修景への活用

ロシア語表記のサインや店舗の看板などにロシア風のデザインを取り入れるなど、まち並みにロシアの雰囲気を出す。

### 戸田の特産品を活かしたロシア料理の開発

高足ガニや深海魚など戸田の特産素材を活かしたロシア料理を開発し、地区全体で普及に取り組む。

### ロシア関連のコンベンション誘致

ロシア文学やロシア映画など、ロシアに関して情報発信力のある団体のイベントや学会を誘致し、戸田とロシアの関係のPRに努める。

### アクセス施設の整備

ホワイトマリンの新造、戸田中央棧橋の新設等と連携し、戸田の魅力を強化する美しい波止場景観を形成する。

## 提案施策 2

### 戸田地区温泉利用促進施策のとりまとめ

#### 温泉施設の機能強化

「沼津市・戸田村 新市建設計画」に基づく「(仮称)戸田地域活性化センター」建設事業、温泉施設機能強化事業との整合を図り、三ヶ所(御浜、壺の湯、井田)の温泉の利活用についてまとめる。

#### 温泉採掘事業の推進

井田温泉掘削事業を継続して推進する。

## 提案施策 3

### (仮称)戸田地域活性化センターの整備・運営

#### 整備・運営に関する議論の充実

戸田地区の観光振興と住民同士の交流を目的とした活性化センターの整備を推進し、戸田観光の拠点として運営を行う。施設は観光振興のための施設であることを周知させるために、ワークショップ等を適宜開催する。

## 提案施策 4

### 戸田地区北山の棚田の利活用の推進

#### 年間プログラムの充実

日本の棚田百選に選ばれている各地の取り組みを参考に、事業計画を再検討する。

#### 利活用のしくみの充実

戸田を故郷として認識してもらえるように、棚田のオーナー制度など、植え付けから刈り込み、脱穀など年間を通じて体験農業ができるしくみを継続、強化する。

### 各種ツーリズムプログラムの充実

井田地区を短期滞在型のエコツーリズムの拠点として位置づけ、農業や海の遊びが体験できる「グリーンツーリズム」「ブルーツーリズム」を充実させたプログラムづくりを行う。

### エコリゾート化へ向けた調査の実施

エコツーリズムの事業採算性や住民意向、事例などを把握するために各種調査を実施し、エコリゾート構想を策定する。

### エコリゾート化に寄与する各種施策の実施

- ・ 温泉の採掘、活用について検討する。
- ・ アメリカから持ち帰った珍しい調度品等を、一般公開・展示するための方策を検討する。
- ・ 海岸、農地、明神池などの修景整備を進める。
- ・ 民家や民宿の改修に際しては、建築協定や景観協定を通じてエコリゾートにふさわしい外観となるように統一性を持たせる。

アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	13 広域で進める観光連携
提案施策	
<p>(1) 観光拠点への移動円滑化</p> <p>(2) 周辺自治体との連携</p>	

### アクションプランの進捗イメージ

沼津の観光スポットへのアクセスが良くなりました・・・

近隣で「伊豆ナンバー」「富士山ナンバー」が創設されたが、かえって宣伝効果となり、沼津への観光客が多くなった。沼津ナンバー自体は減少したものの、地力のあるまちとして沼津の求心力が衰えたわけではなかった。観光交通が整理され、移動しやすいまちに生れ変わったことにも起因する。特に沼津港周辺や戸田など観光資源のまとまりがある地域は、域内限定の自転車タクシーなどスローな移動手段が活躍し、松林をのんびり移動する観光が森林浴効果も相まって人気となっている。

集客力のある御殿場のアウトレットモールからの観光客も多く、周辺の主要観光施設におけるPRが充実していることがうかがえる。

## 提案施策 1

### 観光拠点への移動円滑化

#### 海のまちをイメージした修景による歩行空間の快適化

沼津駅周辺総合整備事業で行う南口駅前広場の改修では、海のまちのイメージを強化した修景とする。沿道には、海のまちをイメージしたベンチやサイン、彫刻や植栽など、楽しく歩ける仕掛けを整備するとともに、バリアフリーに配慮した整備を行う。

#### 既存事業等と連携した各種交通手段のあり方の検討

将来性を勘案して、バス事業者や漁港関係者、市民の意向を把握し、採算性を考慮した交通手段のあり方を検討する。

公共交通活性化対策事業に基づき、JR沼津駅や沼津港周辺など観光の起終点になる場所と、伊豆の主要観光施設を結ぶ観光専門の輸送船や乗合バスなどの移動手段の確保を検討する。

東名愛鷹PAスマートIC整備、第二東名沼津SAスマートIC整備、東駿河湾環状道路整備といった主要事業との連携を強化する。

#### 各種サービスの充実化

沼津港改修、市場移設に合わせて行なわれる駐車場の拡張整備では、パークアンドライドの可能性を検討する。

沼津市内の交通事業者との連携を促し、共通パスポートなどの移動円滑化をサポートするサービスを企画、導入する。

道の駅や鉄道各駅、周辺自治体の観光協会や主要観光施設において、沼津の魅力を盛り込んだポスターやパンフレット等を通じてのPRを充実する。

## 提案施策 2

### 周辺自治体との連携

#### 伊豆および東部地域全体のプロモーションの実施

周辺自治体と観光振興面において連携し、海と山、食と温泉など個々に強みとなる個性を売り込みながら伊豆および東部地域全体のプロモーションを図る。

#### 景観に配慮した道路整備の実施

快適なドライブを促す仕掛けとして、フラワーロード、共通サインの設置など道路整備について、国や県と連携を図りながら景観に配慮した整備を行う。

#### 周辺自治体等との連携強化

技能五輪国際大会、ロボカップ、小山町でのF1開催など、大きな集客が見込めるイベントでは、周辺自治体との結びつきを進め、共同でPRする。

アクションの柱	観光の魅力づくり
アクションプラン	14 観光ひとづくり
提案施策	

(1) 観光教育の推進

(2) オール沼津によるホスピタリティ向上

### アクションプランの進捗イメージ

イキイキとひとが育っていく沼津です・・・

沼津出身で東京の私大に通うA君は、運転免許を取得した友人に沼津の朝市に行くことを勧めた。

「この季節なら がうまい」などリアルな話にサークル仲間が影響を受け、週末仲間たちでドライブに行くことになった。A君は地元にいる旧友を呼び出して皆で戸田に行くことを考えている。

Bさん家族は、子どもの出産を機に故郷の沼津にUターンして数年が経った。東京の社宅住まいの時の友人家族を毎年招待している。特別なもてなしをしているわけではないが、友人家族は沼津の夏を大変気に入ってくれている。子ども同士も釣りや素潜り、冒険プログラムへの参加など、思い思いに楽しんでいる。

海外からの書き込みもあった。夏期休暇にバックパック旅行で来日した 共和国のDさんである。東洋の異国で受けた温かいもてなしが忘れられないという。Dさんは沼津でのひと夏の出来事を小説にしてみようと考えている。

## 提案施策 1

### 観光教育の推進

#### ぬまづ観光まめ大使（仮称）の育成

ふるさと教育の一環として「ぬまづ観光まめ大使（仮称）」の取り組みを進める。

#### 社会科副読本への観光に関する記載

市内小学校に配布されている社会科副読本「沼津」に、本市の観光について紹介する記事を掲載する。

#### 生涯学習の充実

まちに対するブランド意識や郷土意識の醸成を図る目的で、沼津の自然、人、歴史、民俗学などを学び、地域活性化や地域づくりへの動機づけを与える取り組みを強化する。

「伊豆学」を社会人向け講座としている日本大学大学院と連携しつつ、市内の郷土史家やNPO、漁師、寿司職人など多様な人材を講師陣としたプログラム化を図り、生涯学習及び観光振興の一環として行う。

## 提案施策 2

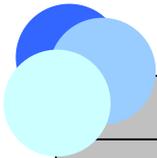
### オール沼津によるホスピタリティ向上

#### ホスピタリティに関する教育制度の創設

ホテル・旅館、レストラン、タクシー、商店等、観光客の受け入れに関連する業界団体等を通じて連携し、ホスピタリティ向上のための研修など統一した教育制度を創設し、オール沼津で観光振興に取り組む。

#### 市民が観光ボランティアについて学ぶ機会の創出

市民団体やボランティアに対しても、観光振興のあり方から来訪者への好ましい接し方などを学ぶ教育機会の充実を図る。



アクションの柱	観光情報のPR
アクションプラン	15 ぬまづのひとによるPR
提案施策	

(1) 燦々ぬまづ大使・ぬまづ観光まめ大使の活用  
(2) PR実施部隊の設立  
(3) 観光案内の機能充実

### アクションプランの進捗イメージ

沼津の子どもが観光大使となっていく・・・

ある夫婦は、お互いに還暦を過ぎて初めて沼津に来た。御用邸記念公園の伝統芸能を觀賞するために来たのだが道に迷ってしまった。すると下校途中の小学生2人が道案内役をかってでてくれた。2人はちょうど御用邸のことを学んだばかりのようで、自慢げに解説をしてくれた。いたく感動した夫婦は、帰宅後、沼津の観光専門ホームページに事のいきさつを書き込んだ。これを見て「同じような経験がある」という書き込みがたくさん舞い込んだ。

観光案内所は、施設と備品が一新され、心地よい空間となった。情報は常に鮮度がよく、所員の対応も笑いがあり親切で、沼津の良さをさりげなくアピールできる術を身につけている。

## 提案施策 1

### 燦々ぬまづ大使・ぬまづ観光まめ大使の活用

#### 燦々ぬまづ大使の活用

燦々ぬまづ大使（観光大使）の活用を促進し、大使自身の企画やアイデアを事業化する。

#### ぬまづ観光まめ大使（仮称）の育成（前掲）

市内の小・中学生が本市の様々な魅力を学習・体感し成長するなかで、市外に出たときに自然と沼津の良さを紹介できるように、ふるさと教育の一環として「ぬまづ観光まめ大使（仮称）（前掲）」の取り組みを進める。

## 提案施策 2

### PR実施部隊の設立

#### 組織の立ち上げ

自主的なセールス活動、ホスピタリティ提供を支援する（仮称）シティセールスサポーターズを立ち上げる。NPOの法人格を取得するなど、永続的な団体となるように整備する。

#### 既存事業の推進

オレンジキャンペーン等のPR既存事業の取り組みを推進する。

## 提案施策 3

### 観光案内の機能充実

#### 観光案内所スタッフの教育強化

観光案内所のスタッフ教育を系統立てプログラム化し、沼津観光のスペシャリストとして育成する。

#### 多様な人材の活用

技能五輪国際大会をはじめ、平成21年の国民文化祭の沼津開催等において案内機能を十分に発揮できるように、やる気があり、おもいやりを持った市民を採用するなど多様な人材を受け入れる。

アクションの柱	観光情報のPR
アクションプラン	16 ぬまづのものによるPR
提案施策	
<p>(1) 観光案内の機能充実</p> <p>(2) 観光・地域ポータルサイトの作成</p>	

### アクションプランの進捗イメージ

観光のインフラ整備がいきわたっていく・・・

市内には視認性、デザイン性に優れた観光案内板や誘導サインが設置され、来訪者の移動の円滑化に貢献しているとともに、良好な景観形成に寄与している。

まちなか及び観光施設は、バリアフリー環境の整備が進むとともに、新しく整備された施設はユニバーサルデザインに配慮されている。

観光専門のホームページは、常に更新され、市民ボランティアによるお気に入り情報の投稿など、口コミによる交流が盛んになっている。

## 提案施策 1

### 観光案内の機能充実

#### 観光案内サイン等の整備

目的地へ円滑に移動することができ、安心して気軽に観光できるように統一した景観にあった案内サインの整備、訪問客を温かく迎える歓迎標示等の機能充実を図る。

#### 観光案内所の充実

市内にある3箇所の観光案内所では、ソフト・ハード両面において観光案内業務の充実化が図られ、利用者が気軽に、かつ、わかりやすい観光情報が得られるような取り組みを進める。

## 提案施策 2

### 観光・地域ポータルサイトの作成

#### ポータルサイトの作成

沼津を観光等の目的により訪れる際、必要となる情報を、宿泊、土産、行政情報等官民間わず一元化された地域ポータルサイトから閲覧できるような仕組みづくりについて検討する。

アクションの柱	観光情報のPR
アクションプラン	17 ターゲットを絞ったPR
提案施策	<p>(1) 「ちょっと違う戸田」を強調</p> <p>(2) 関東・甲信越地域へのPR</p> <p>(3) ターゲットを明確にしたPR</p> <p>(4) 外国人旅行者の誘致</p>

### アクションプランの進捗イメージ

個性が充実している沼津の観光です・・・

ロシアとの交流や変わったイベントなど、戸田地区では、“ちょっと違う”まちづくりの成果が上がりつつある。

30～40代の主婦をターゲットにする女性誌で、沼津を特集するお洒落な記事が掲載されたことに端を発し、小さな子どもを持つ家族連れの旅行者が徐々に増加する。

同時に全国ネットの旅行番組による取材も相次ぎ、多くの旅行者が訪問する。

また、富士山が世界遺産に登録されたことにより、海外からの訪問も急増している。

## 提案施策 1

### 「ちょっと違う戸田」を強調

#### 他の西伊豆地域と差別化した P R

戸田地区は、特産の高足ガニ、深海魚、塩やロシアとの交流、裏路地など、西伊豆のなかでも“ちょっと違う”部分を魅力のポイントとして観光振興を図る。

## 提案施策 2

### 関東・甲信越地域への P R

#### 東京方面への P R

関東、首都圏に対しては、豊富な食資源および戸田の特異性をアピールする。  
また、あさぎり号、ホワイトマリン等と連携したツアーを実施し、東京からの誘客を図る。

#### 甲信越地域への P R

甲信越に対しては、海資源の豊富さを中心に、学校などへ本市への遠足や社会見学などの誘致を行う。

#### アンテナショップの運営

関東・甲信越地域の商店街と連携し、空き店舗を活用したアンテナショップの委託販売および観光案内について検討する。

## 提案施策 3

### ターゲットを明確にした P R

#### 各種媒体への P R

女性ライフスタイル誌や中高齢者向け旅行誌など、ターゲットを明確にした媒体に沼津特集などの企画を売り込み、年代や対象別に沼津の楽しみ方を紹介する。

## 提案施策 4

### 外国人旅行者の誘致

#### 具体的な素材を活用した P R

富士山と寿司をセットで P R する等、沼津へ足を伸ばしてもらうため、各種媒体への具体的な売込みを行う。

#### 新宿や浅草での P R

沼津はアジア人観光客や滞在者が多い新宿と特急電車で直結している利点があるので、新宿エリアにおいて沼津観光の P R を積極的に行う。

また、バックパッカーなど外国人旅行者に対応した格安宿が集まる浅草地区での P R を行う。

#### ユニバーサルデザインの導入

外国語表記のある観光案内板を整備する。

#### 外国語パンフレットの充実を図る

英語版をはじめとした、中国・韓国語版など多数の言語版の観光パンフレットを作成し、外国からの旅行者の誘致に努める。





発行 / 平成 19 年 3 月 沼津市産業振興部観光交流課  
〒410-8601 沼津市御幸町 1 6 番 1 号  
055-934-4747 Fax 055-933-1412  
URL <http://www.city.numazu.shizuoka.jp/>